

7 板書の工夫

板書の目的は、視覚に訴え、思考を深めることにあります。そのままでは消えてしまう言葉のやりとりを板書の形に整理することで、児童生徒の思考の拠り所となります。

ポイントとして、①「めあて」が明示してある、②授業の全体像と流れが視覚的に把握しやすい、③今、何を学習しているのか明確となっている、④適時確認でき、振り返りができる、⑤見やすい、などが挙げられます。

1 分かりやすい板書



図 7-1 「道徳 (小)」


- ・イラストを用いることで場面がイメージしやすい。
- ・心情を表す言葉に  マークを付けました。



図 7-2 「学級会 (小)」

- ・「課題」や「めあて」が簡潔・明快に示されています。
- ・話し合う時間を視覚的に提示しています。決められた時間の中で効率的な話し合いを進めるための配慮の一つになります。



図 7-3 「技術 (中)」

- ・作業の留意点やポイントの掲示と本時の「課題」「手順」等がバランス良く配置されています。
- ・生徒が作業の最中に必要に応じて適時、確認できます。

2 表札やマークの活用

授業の展開を表す表札やマーク等の掲示物を効果的に活用することで見やすくなり、理解が促されます。



・本時の「めあて」が赤チョークの枠で囲まれ強調されています。それと同時に「課題」の表札（マーク）も併用し、多様な情報の提示となっています。

・内容ごとに「課題」「問題」「予想」「自分の考え」の表札（マーク）が効果的に使われ、「全体と今」が把握できます。

図 7-4 「算数（小）」

〈学習活動を示すマーク（例）〉

めあて	例題	話し合い
発表	まとめ	

ノートに書き写す箇所を示す

〈教科書や資料を示すマーク（例）〉

教 p.35

〈注意を促すマーク（例）〉

注意深く聞きましょう！（静かにしましょう）

図 7-5 「マークの例」

3 板書は「残す」が原則

一度書いた板書は、途中ではできるだけ消さないのが原則です。本時の「めあて」や重要な文章は、必ず残しておきます。

しかし、どうしても消さなければならない場合は、黒板を半分に区切り、必ず半分は残すようにします。特に書き写すことが遅い児童生徒には、必要な配慮です。

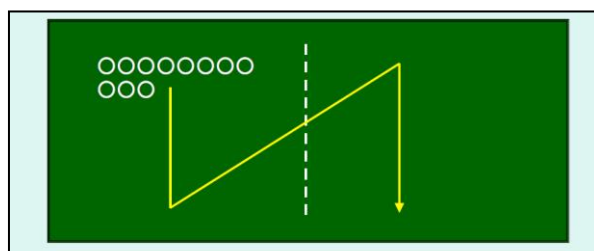


図 7-6 「黒板を区切り、半分は残す」

4 ホワイトボードの活用

ホワイトボードや小黒板を有効に活用します。特にホワイトボードは、見るべき箇所が目立つため、定義やまとめを整理するのに有効に提示できます。

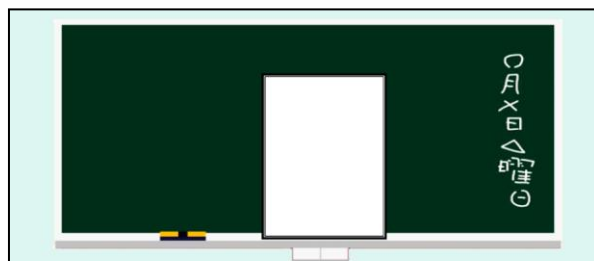


図 7-7 「ホワイトボード（小黒板）の活用」

5 チョークの色

誰でも識別しやすい配色で構成し、色以外の情報も加える工夫をしましょう。

チョークは、白と黄を主体に使います。基本は白、重要語句は黄とすると良いでしょう。

あえて、他の色を使う場合は、アンダーライン、囲みをつけるなどの色以外の情報を加えます。強調や採点、枠など補助的に使用するように心掛けます。

○ 識別しやすい色	× 識別しにくい色
<ul style="list-style-type: none"> ・白と黄は、見えやすい ・基本は白、黄は重要語句に 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤・緑・茶・青は、見えにくい ・できるだけ避ける

図 7-8 「分かりやすいチョークの色」

～色覚にかかる指導のあり方～

学校に在籍する男子の5%、女子の0.2%に「色覚異常」があるとされています。

現在、学校における児童生徒等の定期健康診断の必須項目から色覚検査は削除されていますが、「色の見分けが困難な児童生徒がいるかもしれない」という前提で、適切な対応が求められています。

1. 板書

- ・板書は明るさが均一になるように照明を工夫します。
- ・黒板は常にきれいな状態に保ちます。
- ・白と黄のチョークを主体に使います。
- ・あえて、白と黄以外の色チョークを使用する場合には、アンダーラインや囲みをつけるなどの色以外の情報を加えます。

2. 掲示物・スライド・OHP・コンピュータ

- ・グラフ・図表は、なるべく少ない種類の色で構成し、形、大きさ、模様、明暗などの色以外の情報を加えます。
- ・文字と背景の色には、わかりやすい組合せの色を使用し、明暗のコントラストがはっきりわかるようにします。

3. 地図

- ・地図に使用されている色分けはことばで説明します。

4. 採点・添削

- ・細字の赤ペン・ボールペンは避け、色鉛筆などの太字の朱色を使用します。

5. 実験・実習

- (1) 化学反応：色の変化の程度が判断できるように、文字で表現するなど工夫します。
- (2) 観察・表現：植物の観察などでは、花などの位置と色を具体的に示します。

6. 造形的な表現活動

- ・図画工作などでは個々の見え方や感じ方を大切に、創造的能力を高めるようにします。

7. 教科・科目の評価・評定

- ・評価・評定は、指導過程全体にわたって総合的に行い、児童生徒の学習意欲を高めるようにします。

〈文部科学省「色覚に関する指導の資料」から抜粋〉

6 様々なメディアの活用

板書の他に、パソコンソフトを活用したプロジェクターや実物投影機、VTRなどICT機器を使用し図解すると効果的です。

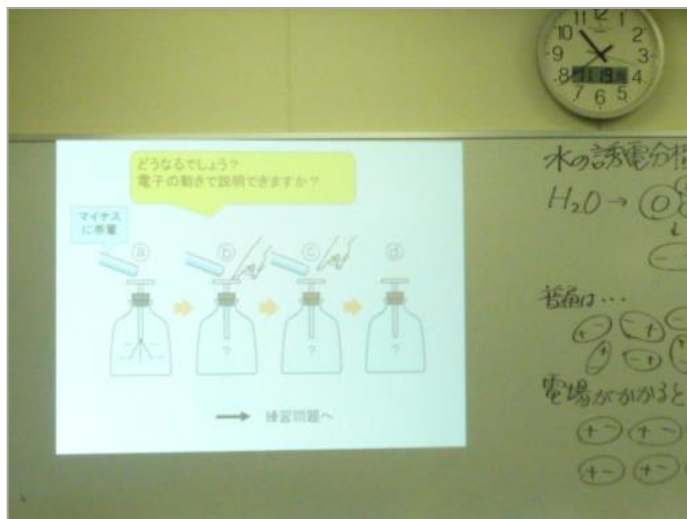


図 7-9 「プロジェクター」

書画カメラで良い例と悪い例を撮り、大型テレビに表示します。そこでなぜ良いのか、なぜ悪いのか考えることができます。

また、書画カメラの拡大機能を使い、のこぎりの刃を拡大して表示し、刃の観察をすることができます（図 7-10）。

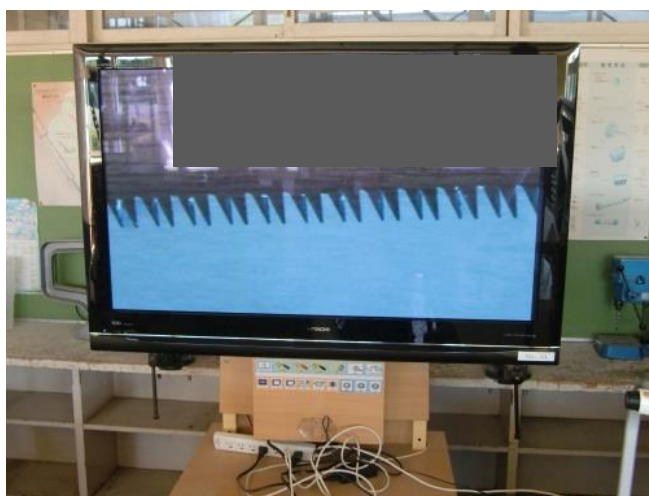


図 7-10 「実物投影機」

<ユニバーサルデザインの視点>

「①全ての児童生徒が参加できる授業」

「③視覚や触覚に訴える教材・教具が準備されている授業」

「④欲しい情報がわかりやすく提供される授業」

→話し言葉だけでなく視覚情報を適切に添えることが重要となります。黒板はそのための基本ツールです。黒板以外にもICT機器を効果的に活用するとよいでしょう。

1 パネルシアターとプロジェクターの活用

ここでは、板書の代わりに活用する視覚的に提示する方法について取り上げます。

一つは、板書代わりとしてのパネルシアターの活用です。場所を選ばず使用でき、活用の自由度も高く、工夫の仕方次第では黒板の補助的な活用ができます(図 7-11)。

もう一つは、スクリーン設置が難しい教室でプロジェクターを使用する場合には、白模造紙等をスクリーンに代用できます(図 7-12)。



図 7-11 「パネルシアター」



図 7-12 「プロジェクター」

～視聴覚教材やICT教材の効果的な活用～

自閉症児の中には、テレビのCMの一節の台詞やメロディをすぐ覚えて口にする児童生徒がいます。テレビやビデオは、彼らにとって効果的な教材と言えそうです。

では、テレビやビデオのどのような特徴が効果的に働いたのでしょうか。

1) 注意を向ける範囲が限定されているため注目しやすい

- ・画面で区切られているため、「どこ」を見るのか明確になる。
- ・映像も音も同じ方向から届くので集中しやすい。
- (360度どの方向から飛んでくるか分からない授業中の音声は注意を払いにくい)

2) 映像と音声の調和

- ・特徴的で覚えやすい映像と音(声、メロディー、ナレーション)が一体化している。

3) 繰り返し

- ・重要なフレーズを繰り返し目に耳にする。

<特別な教育的支援を必要とする児童生徒への効果>

自閉症の認知特性に「視覚優位」があります。これは、話し言葉による音声情報よりも、文字や絵、写真などの視覚情報のほうが記憶に残りやすく理解しやすいというものです。

また、ワーキングメモリの働きが弱い児童生徒にとって、視覚情報は記憶や思考の助けになります。ワーキングメモリとは、情報を処理する際に使われる記憶のことです。例えば、教師の話を理解するには、聞きながらその内容を少しの時間覚え、頭の中で整理する必要があります。また、暗算では、それぞれの桁の数を足しながら、繰り上がりの数を覚えておく必要があります。このように記憶や思考などの認知的な活動を行う際に、消えてなくなる音声情報だけでなく、“残る”視覚情報を提示することは、有効な支援となるのです。